

観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>は56%である。県・国の補助、公民館の利用は、それぞれ63%、62%の正答率である。誤答の多くは、住民の願いを投票によって決定するととらえたり、公民館でのいろいろな催しが、公民館の利益になるととらえている。</p>	<p>てとらえさせると効果的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 住民の願いと、市（町・村）役所・県庁のはたらき、県（市・町・村）議会のはたらきが相互に関連しあっていることを指導する必要がある。</li> </ul>
<p>2. 火事を早く消すための組織的活動と協力についての思考</p> <p>消防車が消火活動をするための駐車場所の正答率は38%で低い。風向きを考えないで、火事場の近くに消防車を停車させればよいと判断している誤答が目だつ。</p> <p>電力会社の協力についての正答率は58%である。誤答例は、通信・連絡の手だすけのために電力会社が火事現場にかけつけると考えているものが多い。</p> <p>火災の際の連絡網についての正答率は62%である。誤答の多くは、消防団員と消防署員を混同して答えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 消火活動をする場合には、消火活動に必要な水だけでなく、風向きも考慮することが大切である。</li> <li>安全な消火活動を考えるとき風下は最も危険であるなど、多くの条件を考えて判断させる必要がある。</li> <li>◦ 消火活動にあたっては、人命尊重の立場から、ガス会社・電力会社など他機関との連絡が必要であることを十分指導しておく。</li> <li>◦ 消防団の人々は、消防署につとめていると考えている。消防団員と消防署員の違いをはっきりさせておく。</li> </ul>
<p>3. 電気やガスの確保についての思考</p> <p>電気やガスの原料としての石油・石炭の正答率は60%である。電気・ガスの大切さやその原料としての石油や石炭の輸入についての正答率は、ともに86%と高い。誤答例としては、「ガスは発電所でつくられる」「電気やガスは無限にある」と、とらえているものが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 電気やガスをつくるためには、石油や石炭が必要であり、これらの大部分は外国からの輸入にたよっていることを、日常生活と結びつけて指導することが大切である。</li> <li>◦ 省エネルギー時代において、電気やガスを大切に利用する心構えを養いたい。</li> </ul>
<p>4. 郷土を調べる方法についての思考・判断</p> <p>昔と今の地図を比較し、道路のちがいを発見するとした正答率は79%である。古老の話から判断すると答えたのは74%である</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 学習のねらいに即して、児童自ら資料を収集・選択・活用できる力をつける必要がある。</li> <li>◦ 児童に思考させる機会を与え、児童自身が見通しをもって問題解決できる学習が必要で</li> </ul>